

## ふるさとレガシーギフトにおける感謝状贈呈式

**【寄附者久保昌城氏挨拶】** 久保でございます。今回ふるさとレガシーギフトに少額ですが協力をさせて頂きました。私は、生駒で生まれ育ち、現在も生駒に住んでおりまして、生駒市が非常に大好きです。この生駒市は約 40 年前 3 万人ほどで市になりまして、12 万人を超えたこともありました。近鉄があり非常に便利な位置ですので、まだまだ伸びると思っておりましたが、現在は 12 万人前後で推移しており、このことに非常に危機感を持っております。生駒の市域は広く、北部のけいはんな学研都市の高山第 1 工区には奈良先端科学技術大学院大学等がありますが、第 2 工区は約 288ha の土地が山で残っております。これをなんとか活用し、発展させたいという思いを持っております。また、多くの市民の方が大阪に勤務して、そこで買い物をするという一方で、生駒市内での消費は少なく、生駒の中心市街地でのお店も少なくなっているという状況が見られます。大阪に近すぎるため大阪での消費が増えて地元は少なくなっているのだと思います。そこで、この生駒に住み、働き、ここで消費してもらう人を増やす必要があると思います。したがって、高山第 2 工区に企業を誘致し、雇用を増やしてもらい、地元で消費してもらうことが大切です。商業も活性化されると思います。また、第 2 工区付近には、リニア新幹線の駅ができるということで、2、3 年で新駅の位置が確定すると言われており、生駒市に駅ができるとは限りませんが、第 2 工区に操作場等のリニア関連施設を誘致し、これを起爆剤として、さらに活性化を図って頂きたく、それらの資金の一部にと思っております。現在のけいはんな新線もリニアの新駅や近鉄京都線に繋げて頂けば、さらに発展すると思います。リニアを起爆剤として第 2 工区の開発にご尽力頂けますよう、少額ですが寄附をさせて頂きました。

**【生駒市長挨拶】** この度は全国で初めてとなります、ふるさとレガシーギフト、「ふるさとへの相続」とも呼んでおりますが、商工会議所会頭の久保昌城様から寄附を頂きました。ふるさと納税という制度もありますが、一番大切なのは、生駒でずっと住んで、活動され、生駒に思いを持って頂いている方に、生駒市の未来、子どもや孫たちのために、寄附を頂き、それを我々が有効に使っていくというお金の流れです。これこそが、ふるさとへの寄附だと思います。今回の寄附を大きな第 1 歩として、ふるさと生駒を愛する方が、寄附をして頂けることを期待しております。久保会頭には大変感謝しております。

ご寄附とともに大きな期待を頂いたわけですが、この高山第 2 工区のさらなる進展と、それに関連して生駒市での地域消費を上げ、雇用を増やしていくこと、産業を発展させるお話をお聞きしましたので、今回頂いた寄附をしっかりと活用できるように、高山第 2 工区、地元の発展に全力で取り組んでまいります。ありがとうございました。

## 【 質疑応答 】

**記者** この寄附の仕組みをどのように知りましたか。

**久保氏** 市から周知して頂きました。

**市長** こういう仕組みが全国で初めて出来ましたということを私や部長からお話をさせて頂きました。

**記者** このふるさとレガシーギフトは 2 自治体で行っているということですが、導入したのはいつですか。

**市長** 4月1日です。

**記者** どちらが先ですか。

**市長** 同時です。

**記者** 実際に寄附をされたのが全国で初めてでということですか。

**市長** はいそうです。

**記者** ふるさと納税は総務省管轄ですが、この制度の監督官庁はどうなりますか。また、これを導入するインセンティブはありますか。

**遺贈寄附推進機構** 特に監督官庁というものはありません。ふるさと納税は寄附金控除がありますが、ふるさとレガシーギフトにはありません。ただし、お亡くなりになった時に寄附をされるということで、相続財産からは除かれます。

**オリックス銀行** この制度は遺言代用信託という既存の金融商品をアレンジさせて頂いておりまして、銀行が金融庁の管轄ですので、間接的にはここが監督官庁になるのではないかと思います。

**遺贈寄附推進機構** 今は2自治体ですが、現在約40ほどの自治体と話をさせて頂いておりますので、順次増えてくると思っております。

**市長** 住民が愛着のあるまちに寄附をしたいという割合が約40%あるのに対して、手続きが煩雑であるとか、ちゃんと使われるのかという不安もあり、実際された方は、約1%と少なくなっています。それを今回遺贈寄附推進機構とオリックス銀行さんの協力で手続きを簡素化し寄附しやすい環境を整備して頂きました。市からは感謝状もお渡ししますが、寄附して頂く方と私や担当の部課長が、どういう思いを持っておられて、何に使うのかということを目撃して、聞くプロセスが一番大切にしたいと思っております。ふるさと納税のように生駒以外の方が寄附をされる制度とは別に、生駒市を愛している方が子どもや孫のためにどう寄附をしていくかということも大切であると考えております。

**記者** 手続きとして市長が寄附者とお会いするということですか。

**市長** 手続きは金融機関で行ってもらいますが、私が寄附者に別途時間を取って頂いて、寄附に対する思い等を聞かせて頂きたいと思っております。

**記者** 今回亡くなられてから寄附されるということで、高山第2工区の整備とずれることになり、使途が変わったりすることもありますか。

**市長** 実際に市に収入されるのはお亡くなりになってからということになりますので、その方の思いを意識してということになります。我々はこのふるさとレガシーギフトが全てであると思っているわけではなくて、もちろんふるさと納税を含め、生前でも寄附して頂ける仕組みもありますので、今回は、生活のこともあり、生きている間に寄附することが難しいという方などに遺贈という一つの仕組みを選択肢の一つとして寄附できる仕組みを作ったものです。いろんな形で市民の方の思いを寄附できる受け皿になるような仕組みとして全国でも珍しい取り組みだと思っております。

**記者** 生駒在住者でなくてもできますか。

**遺贈寄附推進機構** 全国どこからでも可能です。

## 令和元年9月月例記者会見

### 【説明】

#### 〔ふるさと納税を活用し、野良猫の避妊・去勢手術を全額支援〕

**市長** 10月1日から生駒市は猫の殺処分ゼロを宣言させて頂きたいと思っております。ふるさと納税

を活用しまして、野良猫の避妊・去勢手術を全額補助する全国初の取り組みをスタートします。都道府県レベルでは既に群馬県で行っておりますが、市町村では全国初めてです。ふるさと納税の在り方につきましては、返礼品競争になることの無意味さなど、いろいろ議論がありますが、その中で我々もふるさと納税をなるべく生駒に住んでいる方とか以前に住んでいた方などに寄附して頂きたいということも考えております。一番力を入れているのは、頂いた寄附を何に使うかということを示して、より思いのある多くの寄附を頂くことに工夫してきたところです。例えば禁煙については禁煙後 45 分間エレベーター禁止にしたり、歩きたばこ禁止の条例を整備したりということも行いました。今回ふるさと納税の使い道として、地域ねこ活動の支援を前面に打ち出して寄附をお願いしたところ、500 万円ほどの寄附を頂きましたので、それを活用して殺処分ゼロを目指すことになりました。猫は非常に繁殖力が強いので、放っておくと、どんどん増え地域の環境が悪化します。生駒市での地域の苦情の中で、この野良猫の問題が相当大きくなっております。実際に自治会にアンケート調査をしたところ、少なくとも市内に野良猫は 270 匹以上おり、現在野良猫の関係で被害を受けている自治会はアンケートの回答があった 94 団体中半分の 46 団体あり、喫緊に取り組むことになりました。具体的な取り組みとしては 4 つありますが、一番大きいのは生駒市がふるさと納税を活用して避妊・去勢手術の全額を負担するということです。流れとしては、地域の自治会や地域ねこ活動のサポーターをしている方が野良猫の避妊・去勢手術の費用の申請をして頂き、補助が決定すれば、市が指定している 9 つの動物病院で手術してもらい、地域に猫を戻し、病院からの請求で市が病院に費用を支払うというものです。地域ではその後エサやりや糞尿の世話をして頂くこととなります。手術費用には、今までは 2 分の 1 とか定額補助でしたが全額を補助することとしました。こういう活動を積極的に行うと避妊去勢手術をした猫が増えますが、えさやりや糞尿の問題も残ります。生駒市では現在 32 名の地域ねこ活動サポーターがおられますが、この数を増やしてその後の支援を頂きたいと思っております。また、サポーターだけに任せるのではなくて、自治会や地域の皆さんにも支援して頂きたいということと、この地域ねこ活動ということを市民の方に普及啓発していき、安易に捨て猫をしないよう監視強化もして頂きます。今回市内の 9 つの動物病院に手術への協力とともに、地域ねこ活動の普及啓発パンフレットの設置や説明などの協力をして頂きます。現在多くの寄附を頂いておりますが、市内の全ての野良猫の手術をするにはまだまだ足りませんので、今後も啓発を続けていくことで、全国からこういう取り組みをふるさと納税で応援頂き、生駒市が地域ねこ活動の全国的なモデルとなるよう、しっかりと継続して支援をしていきたいと思っております。

### 〔生駒市と akippa がこども園の駐車場の貸し出しを 10 月から開始〕

**市長** akippa は、公共施設や家の駐車場も空きスペースについて、スマートフォンのアプリを利用して貸し出して収益を得ることができ、利用する方も近くで安く使える駐車場を簡単に探せるという、駐車場のシェアリングサービスを行っています。生駒市は akippa と協定を結び、全国で初めて市の遊休地を駐車場として活用しているところです。市役所前に市所有の空きスペースがありましたので、akippa に貸し出してありますが、現在約 90%の稼働率です。

公共施設の中で保育園には駐車場があり、日曜日は基本的には使わず、そういうスペースを使わないのはもったいないと考えておりましたが、今回こども園の駐車場を akippa に貸し出しをすることになり、こども園の駐車場を貸し出したのが全国で初めてということになります。具体的には、南こども園ですが、ここは幼稚園と保育園が一つに統合し、旧保育園の敷地を駐車場として利用しています。その内 10 台分を日曜日、祝日に貸し出すというものです。実際には 10 月 6 日の日曜日からのスタートに

なります。この場所は南コミュニティセンターせせらぎの近くで、中心市街地からは離れておりますが、近隣には小学校や南コミュニティセンターがあり、イベント行事がある時などに利用頂けると考えております。予約貸し出し台数は当面 10 台で、利用料金は一日 300 円と非常に安くなっていますが、今後利用者が増えてくれば akippa の判断で料金が上がる可能性はあります。今回はこども園ですが、Akippa の良いところは、融通がきくというところですよ。例えばゴールデンウィークや年末年始、夜だけとか、いろんな形の貸し出しが出来ますので、一般の市民の方にも貸し出しも増えていきますし、市役所が保有する駐車場の中で、土日や夜等に貸せるという所があれば、積極的に貸し出ししたいと思います。

#### 【保育園見学バスツアーを県内で初開催】

**市長** 生駒市の待機児童の人数が 4 月 1 日現在で 91 人となっております。待機児童の数については、カウントの仕方に国での統一的なものがなく、単純に他と比較はできないところですが、生駒市でこれだけの待機児童がいるのは事実ですので、これを減らすため、いろいろな取り組みをしています。まずは小規模保育園を増やすことを行っておりますが、その中で大きな課題が保育士の確保です。新卒の保育士も採用していますが、市内に保育士資格を持つ方が沢山おられて、子育て中だったり、子育て後も保育園に復帰するのも大変と思われる潜在保育士の方を対象にした説明会を一昨年から行っておりまして、採用の成果も出ております。各園に集まってもらっての説明会も引き続き行いますが、その進化系として、それぞれの園がどのような環境で保育をしているのかとかということ現場を見てもらった方が働くイメージが湧くであろうということで、いろんな保育園を見学してもらうバスツアーを開催することになりました。これは県内で初めての取り組みです。具体的には、5 日間での 5 つのコースで、それぞれ 3~4 園回って頂き、定員は各 20 名を想定しています。公立も私立も両方あります。実際に回ってもらい、自分に合った働きやすい職場を見つけて頂き、より効果的なマッチングに繋がればと思っております。

#### 【トンガ代表チームによるラグビー教室を開催】

**市長** 今、ラグビーワールドカップが開催され非常に盛り上がっていますが、これに出場しているトンガ代表チームによるラグビー教室を、10 月 12 日の土曜日に生駒市で開催できることになりました。場所は、HOS 生駒北スポーツセンターグラウンドです。対象は市内在住の子どもということで、当初 100 人を予定していましたが、非常に人気で 150 人に増やしましたが、すでに定員一杯となっております。試合前の勇壮な踊り「シピタウ」も披露して頂く予定です。トンガは世界ランキング 16 位ということで、日本よりは下位ですが、7 大会連続 8 度目の出場ということで伝統のある強い国で、日本でもラトウ、ホラニ選手が活躍しました。トンガ出身の選手はいろんな国で活躍をされています。生駒市もラグビーが非常に盛んで、今年 44 周年を迎える生駒少年ラグビークラブには 100 人もの子どもがおり、全国で活躍する選手を輩出しています。

#### 【質疑応答】

##### 〔ふるさと納税を活用し、野良猫の避妊・去勢手術を全額支援〕

**記者** 猫の殺処分ゼロの取り組みですが、市長の思いを聞かせてください。

**市長** 全国的にも非常に大きな課題となっている中、生駒市では殺処分ゼロを宣言したわけですが、

この宣言をする意味は、非常に重いと感じております。地域の中で去勢・避妊手術をして、さらにそういう猫を地域で育てていかなければいけないということがワンセットになりますので、なかなか難しいところですが、今回ふるさと納税の寄附も頂きましたし、市職員、地域ねこ活動サポーター、動物病院などいろいろな方のご協力を頂き、殺処分ゼロを宣言することができました。

**記者** これに使われるふるさと納税の額と手術費用を教えてください。

**担当課長** 平成30年度に頂いた寄附が569万9千円です。手術費用は避妊手術が1万6500円、去勢手術が1万1千円で市内の病院と契約しています。

**市長** 手術費用は病院によって差があるところですが、今回比較的好意的な額で契約して頂きました。

**記者** 569万円はこれだけのためにもらったものですか。

**担当課長** はいそうです。

**記者** 270匹というのはいつ時点での数値ですか。

**担当課長** 令和元年7月末です。

**記者** ふるさと納税の「殺処分ゼロを目指す猫愛護コース」は、30年度からですか。

**担当課長** はいそうです。

**記者** 地域ねこサポーターというのは、市に登録することになりますか。条件や資格はありますか。

**担当課長** 登録制ですが、条件、資格等はありません。

**記者** 飼い猫と野良猫の区別が難しいと思いますが、野良猫だけを認定して手術をちゃんとできますか。

**担当課長** 職員が地域に入って、飼い猫でないことを確認してからになります。

**記者** 飼い猫なのに野良猫と偽って手術費用をもらうことも考えられますが。

**市長** 制度を悪用しようとする者も出てくることは想定されますが、地域での監視も強化していきたいと思います。

**記者** 申請されるのは、サポーターだけですか。

**担当課長** 自治会代表か地域住民2名以上かサポーターかになります。

**記者** 規則はありますか。

**担当課長** あります。

**記者** 31年度のふるさと納税のメニューに「殺処分ゼロを目指す猫愛護コース」はありますか。

**市長** 入っています。

**担当課長** 今年度は8月末で739万円頂いています。

**記者** 来年度以降も続きますか。

**市長** 全ての手術をするにはまだまだ費用がかかりますので、当分続ける予定です。

**記者** 手術をするためには、誰かが野良猫を捕まえると思うのですが、誰がするんですか。

**市長** 地域住民にして頂くのが原則ですが、先ほどのサポーターや地域猫の活動している方（地域猫の会）にも協力をお願いすることになります。

**記者** 犬についてはどうですか。

**市長** 地域生活環境で言えば、現状犬については、猫ほど問題とはなっていません。

**記者** 生駒市で実際殺処分になっているんですか。

**担当課長** 県の郡山保健所に持ち込まれた猫はほぼ殺処分されています。生駒市からの持ち込みは平成30年度で49件、平成29年度は33件です。

**記者** 持ち込まれた中で譲渡される場合もあると思うので、実際殺処分された数と違うのではありませんか。

**担当課長** そのあたりは詳しく把握していません。

**市長** ほとんどが殺処分されているということです。

**記者** 持ち込まれる猫は増えていますか。

**担当課長** 30年度は多いですが、毎年同じような推移です。

**記者** 地域ねこ活動サポーターというのは生駒市独自の制度ですか。

**担当課長** 他にもありますが、県内では生駒市だけです。

**記者** これまでの補助制度の内容は。

**担当課長** 平成29年度までは、避妊5千円、去勢4千円で、平成30年度は倍増の避妊1万円、去勢8千円になりました。今回から個人負担がなくなることになります。

**記者** 実際何件の補助を行いましたか。

**担当課長** 平成30年度は122件で、避妊が67件、去勢が55件です。

**記者** 避妊・去勢手術の全額負担をしているのは他にあるということですが。

**担当課長** 県単位でふるさと納税をしているのは群馬県です。全額補助している自治体は静岡県長泉町と福岡県宇美町です。

**市長** この2自治体は規模が小さいので自前の財源で補助をしていると思います。ふるさと納税で補助している市町村は生駒市だけです。

#### 〔保育園見学バスツアーを県内で初開催〕

**記者** 見学バスツアーをされるのが初めてということですね。

**担当者** はいそうです。

**記者** 市内の保育園全てを網羅していますか。

**担当者** 0歳から2歳までで定員19名までの小規模園は除いています。

**記者** 潜在保育士だけが対象ですか。

**担当者** 今後生駒市で働きたいと思われる方を対象にしていますので学生も可能です。

**市長** メインターゲットは潜在保育士です。

**記者** 同じ人が幾つものコースに参加することは可能でしょうか。

**担当者** はい結構です。

**記者** コースごとに特徴があり、それを見て参加するということですね。

**担当者** 子どももいる午前中には見て頂くのが一番いいので、午前中に回りきれぬコースで近場どうしの園を設定しました。

**記者** 実際に潜在保育士が生駒市で働き始めたケースはありますか。

**担当者** PR動画も作り募集もしてきましたので、昨年度では8名、29年度では17名採用しました。

**記者** 市内で定員割れをしているところはありますか。

**担当者** はいあります。

**記者** 今回見学するところは人気の高い所ですか。

**担当者** そういうことではなくて、市内全園になります。

**担当次長** 先ほど待機児童は91人と言いましたが、48人の定員の空きがあったのですが、その内38人はミスマッチになり、待機児童となったものです。

**市長** 保護者としては、希望する園でなければ預けないことも多く、そういう場合も生駒市では待機児童とカウントしています。一方でそういうケースを待機児童としてカウントしない自治体もあります。

**記者** そういうのも含め待機児童を減らすために保育士を採用するということですね。

**担当次長** はいそうです。

〔生駒市と akippa がこども園の駐車場の貸し出しを 10 月から開始〕

**記者** 今回 10 台分ですが、稼働率が良くなれば別のこども園でもする可能性はありますか。

**担当次長** はいあります。

**市長** この場所も 25 台分ありますので、この場所の利用可能台数を増やすということもあります。園によって状況は変わりますので、全ての園で実施するとは限りませんが、他の公共施設についても検討していきたいと思っております。

**記者** 市役所前が 90%の稼働率ということですが、市民宅の空きを活用できたという話もありましたが、そちらも進んでいますか。

**担当課長** 市民も何件かの利用はあります。最近では高山町での利用がありました。

**記者** 市が行っているからということで利用されているのでしょうか。

**担当課長** 高山町のケースも市に問い合わせがありました。

**記者** 生駒市として他の公共施設も考えていますか。

**市長** 考えています。市内の貸し出し状況も後日情報提供させていただきます。

**記者** 今回は、akippa と連携してこども園で貸し出しするのが全国で初めてということですね。

**市長** はいそうです。保育園、こども園で初めてということです。

(その他の質問)

なし

(了)